



若者の視点で地域の 防災「再」チェック!

エステバン ×
多賀城高校

2015年12月12日(土)、多賀城市ジュニアリーダー・エステバンのメンバーと多賀城高校の生徒が、日本損害保険協会の防災教育プログラム「ぼうさい探検隊」の一環で防災まちあるきを行いました。実際に八幡地区を歩き、気づいたことのまとめを通して「普段歩いている道でも気づいていないことがたくさんあった」「東日本大震災の時

のことを思い出した」という感想も出るなど、防災についてあらためて考える良い機会となりました。

震災時に中高生が地域を支える担い手となった例も多くあり、このような活動から得られた若い世代の視点や発想を、防災面に限らず地域づくりに取り入れていくことも大事にしていきたいですね。

✓ チェック



八幡地区を歩きながら、多賀城高校の生徒が設置している津波プレートや、避難ビル、消火栓、公衆電話など災害時に役立つと思われるものをチェックしました。

HOP ✓

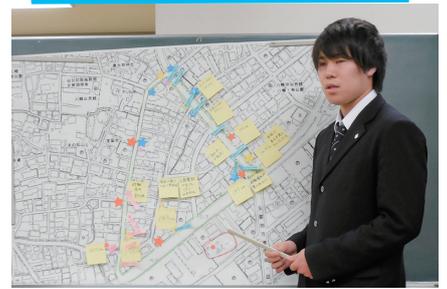
📍 マッピング



「津波避難ビルはここだ」「この辺は私の背丈より高い所まで津波が来ていた」。普段は多賀城で別々に活動していますが、活発に意見を交わしつつチェックしたことや気づいたことを1枚の地図にまとめていきました。

STEP! ✓

🗨️ プレゼン



最後に、地図をもとに気づいたことを発表しました。津波プレートについては「設置の間隔をもっと空けて、広い範囲の状況を分かるようにしたほうがよい」「密集していることで、津波がひたかたまりに来たことが分かる」という意見も交わされました。

JUMP!! ✓



ヒント from “たがさぽPress”

たがさぽのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

● **遊びが育む地域の子育てコミュニティ** 2015年12月3日(木)掲載
大人も子どももひとりの人間として平等でいられる「asobi基地」。遊びを通して、誰もが関わるができる子育ての場づくりに取り組んでいます。

● **すべての人にアートを。** 2015年12月10日(木)掲載
仙台市を中心にアート活動を行うNPO法人アートワークショップすんぶちよ。障がいの有無などを問わずすべての人がアートを楽しむことを目指します。

● **ライブ初心者にもやさしいイベント** 2015年12月17日(木)掲載
HILINE実行委員会が行っている、ライブ会場までの道案内「ライブツアー」。遠方からのお客さんや、ライブハウスへの行き方が分からない方に好評です。

“たがさぽPress”とは?

たがさぽスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぽPressへ! *ケータイ、スマホからご覧いただけます。



たがさぽからのお知らせ

たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

きいてみよう! 🗣️ やさしい居場所のはじめ方

参加者募集!

地域の人がゆるやかにつながる「居場所づくり」をしている東田中南自治会の加賀逸雄さんと、家庭文庫「ちいさいおうち」の佐々木優美さんにお話をうかがいます。活動について知りたい方、人をつなぐホッとできる場所をつくりたいと考えている方はぜひご参加ください。想いを実現するヒントやアイデアが見つかるかも!

日時	2016年2月27日(土) 午後1時~午後3時
会場	多賀城市市民活動サポートセンター 301会議室
参加費	500円
定員	10名(先着順/要事前申込)
申込	多賀城市市民活動サポートセンター窓口または電話にて
問合せ	022-368-7745(多賀城市市民活動サポートセンター)



シニアのみなさん、 地域に活躍の場を見つけないか？

12月5日(土)、シニアの方が持つ力を地域・社会活動に活かしている事例を学ぶために、青森県総合社会教育センターがたがさぽへ視察に訪れました。今回は、視察の様子を通してシニアの方の地域での活躍を考えていきます。

地域の中に生きがいを見つける

少子高齢化・人口減少が進む社会において、地域や社会をもっと暮らしやすくしていくには、若い方の力だけでなくシニアの方が培ってきた知識・技術・経験も必要となります。多賀城市内にもすでに活動を始めているシニアの方が多くいますし、たがさぽにも「自分の経験を何かに活かせないか」「定年後に地域で何かはじめようと思っている」と考えている方がご相談に訪れます。また、平成27年3月に作られた「多賀城市高齢者福祉計画」の65歳以上を対象としたアンケートでは、「生きがいを感じていること」について19.6%が地域の親睦・交流会での活動、6.6%がボランティア活動と回答しています。このように、地域にとってシニアの方は貴重な人材として、シニアの方にとって地域は定年後の生きがいづくりの場として、両者がつながっていくことが期待されています。



視察参加者のみなさん。視察は、青森県総合社会教育センターの事業の一環として実施されました。

好きなこと・得意なことからはじめる

視察では、これから地域で何かはじめてみたいという方へ向けて、仕事での経験やつながり、趣味で学んだスキルを活かして活躍されている方の事例を紹介しました。多賀城市を含む周辺地域で活躍する「いきいきマジシャン」は、定期的にマジックの練習会を開き、その成果を福祉施設や地域のイベントで披露しています。もともとはマジック講習会の受講者が集まってマジックを学びあうようになったのがはじまり。メンバーの柴田登子さんがヘルパーをしていたこともあって、仕事でのつながりを生かし福祉施設で練習の成果を披露するようになりました。マジックによって福祉施設に笑顔があふれるだけでなく、メンバーにとっても誰かに喜んでもらえることが励みになったり、マジックの楽しさを共有できるという生きがい・やりがいにつながっているそうです。



いきいきマジシャンの柴田ご夫妻。手品の披露とともに活躍事例としてご紹介しました。

はじめの一歩の踏み出し方

「何かしたいけど、何からはじめたらよいか分からない」という方もいると思いますが、紹介した事例のように「好きなこと・得意なこと」から考えてみてはいかがでしょうか。そのためには、まず自分の興味関心ごとや特技、仕事での経験などを紙に書き出すなど見える化し、整理することが大事です。その上で、それらが地域にどのようにつながり、活かせるか考えてみましょう。整理のために、こちらの冊子が参考になります。



「人生再設計のススメ」
発行：仙台市市民活動サポートセンター

内容
千ら見せ！

仙台市での事例や、想いを実現するためのステップ、自分の想いやできること、社会・地域に必要なことを整理するワークシートが入っています。「地域のために何かしたい、でも何からはじめたらよいか分からない」という方が一歩踏み出すきっかけになります。

視察の様子と「人生再設計のススメ」はたがさぽのブログでも紹介しています。



アクティブシニアが地域で活躍
～青森から視察が来ました～
2015年12月20日(日)掲載



セカンドライフの一歩を後押し
「人生再設計のススメ」
2015年12月15日(火)掲載

